

## 2018年空気充てん作業時及び空気補充時の事故調査概要について

**事故概要**

①2018年中の空気充てん作業時の事故は、33件。

- ・パンク修理作業に関連する事故は、18件(55%)。
- ・パンク走行等に伴うタイヤの損傷は、15件(45%)。その内、ひきずり痕の見落としは、9件。
- ・安全囲い等を使用していなかったケースは、17件(53%\*)。その内、人的被害があったものは、10件(31%\*)。 ※リム解き作業のみの事故が1件あり、それを除外し、32件中の割合で計算した。
- ・特別教育未受講は、6件(18%)。

②空気補充中(車両に取り付けた状態での作業)の事故は、2件。

**事故を防ぐ為に！**

**まずは、法令順守** (労働安全衛生法令で定められた事業者・作業者の責務を厳守しましょう)

- ・空気充てん作業者は、必ず特別教育を受講すること。
- ・エアコンプレッサーの圧力調整弁を適正に調整すること。
- ・安全囲い等飛来防止器具の使用をすること。

**1. パンク修理等に伴う空気充てん作業時の注意点**

- ・空気を入れてパンク箇所を確認する場合は、安全囲いに入れた上で、100kPa以上は充てんしないこと。パンク箇所がわからない場合は、リム解きし、内面からパンク箇所を確認する。但し、トラック及びバス用タイヤ、小形トラック用タイヤの場合は、安全囲いに入れた状態のまま、少しずつ空気充てんを行い、都度パンク箇所の確認を繰り返すこと。300kPaまでにパンク箇所がわからない場合は、それ以上空気を充てんせず、リム解きして内面からパンク箇所を確認すること。
- ・パンク(バルブ等の損傷を含む)修理する場合は、低内圧走行等によりダメージを受けている可能性があるため、リム解きし、引きずり痕等の異常がないことを確認の上、作業を行うこと。
- ・パンク修理したタイヤは、コードが疲労している場合があるので、空気充てん後、5分以上を目安として安全囲い内で破裂しないことを確認してから車両に取付けること。
- ・下表のビードシーティング圧を厳守すること。

タイヤの種類		ビードシーティング圧
乗用車用／小形トラック用／トラック及びバス用		300kPa
農業機械用	使用空気圧 250kPa 以上	250kPa
	使用空気圧 250kPa 未満	使用空気圧
建設車両用／産業車両用	ロックリング式	50kPa
	上記以外	300kPa

※上表にかかわらず、タイヤメーカーの指定がある場合はそれに従うこと。

- ・リムのサビ、フランジ部の変形に注意すること。
- ・コア無し充てんしないこと。
- ・パンク修理後のTB用タイヤの空気充てん作業時は、できるだけヘルメットを装着すること。
- ・空気充てん中は、タイヤサイドウォール部の正面から身体を避けること。
- ・空気充てん時、又は充てん後タイヤサイドウォール部からの異音(プチプチ音等)が聞こえたら、ただちに作業を中止し、避難すること。

